

第33回
2017

ATP賞

テレビ番組を始めとする映像コンテンツの創り手が選ぶ『第33回ATP賞テレビグランプリ』（主催：ATP）が7月14日（金）六本木ヒルズハリウッドホールにて開催されました。今回の応募総数は、152作品。栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票によりドキュメンタリー部門のBS1スペシャル「原爆救護」～被爆した兵士の歳月～（テムジン/NHK BS1）に輝きました。最優秀新人賞には、優秀新人賞6名の中から、会員社の投票によって大映テレビ北川俊樹さんが選考され、公募によりネット配信作品などを顕彰する特別賞非放送系部門は、Netflixオリジナルドラマ「火花」（YDクリエイション/Netflix）が選ばれました。理事会推薦による特別賞枠では、「東京女子図鑑」「テレビマンユニオンチャンネル」「孤独のグルメ」制作チームが国内、海外でのネット配信での実績等の評価を受け選考に至りました。

グランプリ

BS1 スペシャル

「原爆救護」～被爆した兵士の歳月～



テムジン/NHK BS1

制作統括：太田宏一（NHK）
伊藤純（NHKエンタープライズ）
矢島良彰（テムジン）
ディレクター：小柳ちひろ（テムジン） 松井至（テムジン）

語り：光岡湧太郎（ヘリンボーン）
取材：杠駿平（テムジン）
撮影：後藤一平（フリー）
編集：太田一生（エール）
音響効果：海老原正倫（創音）

会社名、肩書きは番組制作当時のものです

BS1スペシャル 「原爆救護」～被爆した兵士の歳月～

テムジン/NHK BS1



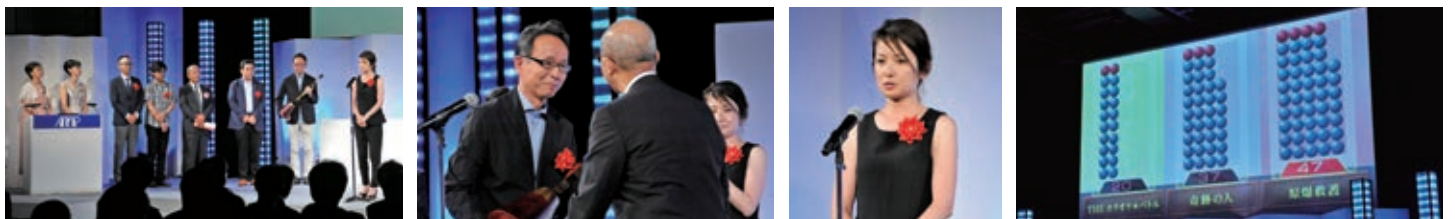
受賞コメント

この度は栄えあるグランプリを頂きありがとうございます。数々のヒロシマものの名作がある中、このように評価して頂いたことに驚いています。受賞を機に多くの方から貴重なコメントを頂きました。3.11以降、ヒロシマをどう描くべきか、悩み抜いて来られた皆様の声を聞くことができたことが今回の受賞の最大の恩恵です。

証言を求めともに全国行脚した撮影の後藤一平さん、証言者の思いの核心を見極めてくれた編集の太田一生さん、証言を際立たせる絶妙の音効をしてくれた海老原正倫さん、元少年兵が乗りうつったかのような気迫の語りをしてくれた光岡湧太郎さん、一人一人の人生と時代を重ね深いメッセージをあぶり出してくれた伊藤純さん、太田宏一さん、直感を具体化する力を与えてくれる弊社・矢島良彰CEO、その他全ての関係者に感謝します。

また、これまでヒロシマの力作を作って来られた諸先輩に様々な場面で助言を頂きました。厚く御礼申し上げます。

ディレクター 小柳ちひろ



最優秀賞

情報・バラエティ部門

「ザ・カラオケバトル」U-18 歌うま大甲子園 春の3時間SP

IVSテレビ制作/テレビ東京



プロデューサー
柴幸伸 (テレビ東京)
佐藤基 (IVSテレビ制作)
三好剛 (IVSテレビ制作)
演出
野澤尚弘 (IVSテレビ制作)
中根三美 (IVSテレビ制作)

受賞コメント

勝負の鍵を握るのは“正確無比なカラオケマシン”。しかし優勝する者は歌唱技術が正確なだけでなく“歌を伝える力”を持ち、何より“絶対勝つという気迫”に満ちています。そんな「歌の格闘技」に挑む彼らに敬意を表します。

弊社は過去「ダンス甲子園」「ハモネプリーグ」等、青春バラエティを手がけて参りました。そのDNAがこの「U-18甲子園シリーズ」中に生きています。諸先輩の皆様にも感謝致します。ありがとうございました。

演出 野澤尚弘 (IVSテレビ制作)



©テレビ東京

ドラマ部門

プレミアムドラマ 奇跡の人

日テレ アックスオン/NHK BSプレミアム



制作統括
後藤高久 (NHK)
河野英裕 (日テレアックスオン)
プロデューサー
大倉寛子 (日テレアックスオン)
演出
狩山俊輔 (日テレアックスオン)
作
岡田恵和

受賞コメント

派手さも流行りも、なにもない、この「奇跡の人」ですが、それゆえに、ひっそりと長い時間を生き続けて、いつまでも見てもらえるような、タフな作品になればいいなと、スタッフ・キャスト全員で必死にそして楽しく作りました。

今回このような栄誉ある賞に選んでいただいたことで、このドラマを見てくれる方々がまた一人、と増えていくことを願っています。

本当に感謝しています。ありがとうございました。

制作統括 河野英裕 (日テレ アックスオン)



ドキュメンタリー部門

NHK BS1スペシャル 「チャイナ・ブルー」ある企業家の記録



受賞コメント

この作品は、中国在住のインディペンデント映画の監督である馬占冬が5年に渡って撮影したもので、原題は『螻蛄/虫けら』です。中国のジェットコースターのような発展を赤裸々な独白とあけすけな生活を通して内側から描き出しました。主人公の李浪はこの作品について「30年後の中国人がこの記録を見ればいい」と話しましたが、この時代の中国社会を生きる者が一様に感じる虚無感と焦燥感を感じることができると感じました。

プロデューサー 平野愛 (AsianComplex)

AsianComplex / NHK BS1



制作統括 佐藤充則 (AsianComplex)
東野真 (NHKエンタープライズ)
安出光伸 (NHK)
プロデューサー 平野愛 (AsianComplex)
ディレクター 馬占冬 (フリー)

ドキュメンタリー部門

ETV特集 「武器ではなく命の水を」医師・中村哲とアフガニスタン



受賞コメント

私たちの番組へ優秀賞を授けて下さったこと、うれしく、光栄に思っております。しかし、この賞をいただいたのは、私たちの取材や構成が評価されたのではなく、取材対象の中村哲医師やアフガン農民たちの生きることへの真摯な姿が見た方々の心に響いたからだと思っています。この賞を通じて、戦乱と干ばつの地に真の平和をもたらすものは何なのか、を考えていただくきっかけになれば、それは望外の喜びです。ありがとうございました。

プロデューサー 谷津賢二 (日本電波ニュース社)

日本電波ニュース社 / NHK Eテレ



プロデューサー&制作統括 谷津賢二 (日本電波ニュース社)
ディレクター 高橋泰一 (日本電波ニュース社)

ドキュメンタリー部門

リアルサウンドが伝える世界 「殺人者34万人の帰郷」ルワンダ虐殺22年目の“声”



受賞コメント

家族を殺した殺人者と共に暮らすとはどういうことなのか。虐殺から22年経ったルワンダは、私たちの想像つかない状況にある一方で「憎しみ」や「赦し」という今の世界の問題をはらむ場所でもありました。番組はノーナレーションで構成することで立ち上げられ、それが音や映像を際立たせて言葉にならない人の感情を伝えたのではないかと思います。挑戦的な場を頂けた事を感謝し「面白い番組とは何か？」を考えて今後も制作に励みたいと思います。

ディレクター 成瀬貴紀 (クリエイティブネクサス)

クリエイティブネクサス / NHK BS1



プロデューサー&制作統括 茂木明彦 (NHK)
関英祐 (NHKエンタープライズ)
上村将之 (クリエイティブネクサス)
ディレクター 成瀬貴紀 (クリエイティブネクサス)

情報・バラエティ部門

「池上彰のニュース2016総決算！ 今そこにある7つの危機を考える！ニッポンが“危ない”」



受賞コメント

優秀賞を頂き誠にありがとうございます。この番組は2016年に起きたニュースに潜む知られざる未来の日本への危機や提言を、池上さんが分かりやすく解説することを目指しました。実際、昨年11月の放送時点ではまだ話題にもなっていなかった中国の「一帯一路」政策は、半年たった今、大きなニュースになっています。その辺りが評価されたのではないかと考えております。今後もニュースを丁寧に掘り起こし、番組を作っていきたいと思っております。

プロデューサー 鴨下潔 (TBSビジョン)

TBSビジョン / TBSテレビ



制作プロデューサー 荒牧克久 (TBSテレビ)
プロデューサー 鴨下潔 (TBSビジョン)
上田淳 (TBSビジョン)
総合演出 大矢慎吾 (TBSビジョン)
ディレクター 野田裕司 (TBSビジョン)
伏見健介 (TBSビジョン)
小高望 (TBSビジョン)

ザ・プレミアム

「時空超越ドキュメンタリードラマ」江戸城無血開城

NHKエンタープライズ、テレビマンユニオン / NHK BSプレミアム

受賞コメント

この度は優秀賞をいただき誠にありがとうございました。
 様々な形で取り上げられ、食傷気味のネタである「江戸城無血開城」。見てくれる方々を、あっ!と言わせるには、全く新しい演出や視点が必要でした。そこで挑んだグローバル視点の幕末史、そして主人公アーネスト・サトウの現代への出現。過去と現在、ドキュメンタリーとドラマが融合した新感覚の作品が評価されましたことは、スタッフ全員の努力の賜であり、喜びです。

エグゼクティブ・プロデューサー 齋藤圭介 (NHKエンタープライズ)



制作統括 谷口雅一 (NHK)
 伊藤純 (NHKエンタープライズ)
 プロデューサー 五鬼助洋美 (テレビマンユニオン)
 齋藤圭介 (NHKエンタープライズ)
 脚本・演出 佐野達也 (テレビマンユニオン)

ドラマ部門

プレミアムよるドラマ「プリンセスメゾン」

カズモ / NHK BSプレミアム

受賞コメント

おひとり様が、充実した生活を送り、憧れの家を買う。小さいようで一大事な日常のひとコマを、リアル体験型ドラマにするトライアルがこの「プリンセスメゾン」です。原作コミックの持つ哲学や人物造詣、そこにある徹底した取材元を最大限に生かし、また、新しく演劇の演出家に、オープニング映像や劇中の応援歌選曲に協力いただく等、今までにないテイストがドラマに息を吹き込んだからこそ、この賞をいただけたと信じています。

プロデューサー 齋藤寛朗 (カズモ)



写真提供 / NHK

制作統括 出水有三 (NHK)
 齋藤寛朗 (カズモ)
 演出 池田千尋
 大橋祥正
 原作 池辺葵
 脚本 高橋泉
 松井香奈

ドラマ部門

NHK BSプレミアム スーパープレミアムドラマ

「漱石悶々」夏目漱石最後の恋 京都祇園の二十九日間

オットィモ、NHKエンタープライズ、東映 / NHK BSプレミアム

受賞コメント

素晴らしい賞をありがとうございます。漱石の日記などほんのわずかの材料から、これほど心揺さぶる大人のファンタジーが生まれるとは!・豊川悦司さん、あんなチャーミングな漱石は見たことありません。宮沢りえさん、艶っぽさとせつなさに震えました。藤本有紀さん、脚本家のスゴミを思い知りました。源孝志監督の最後までブレのない演出。現場を仕切ってくれた東映の皆さんとも喜びを分かち合い、祝杯を挙げたいと思います。

制作統括 シニア・エグゼクティブ・プロデューサー 伊藤純 (NHKエンタープライズ)



制作統括 牧野望 (NHK)
 豊田研吾 (NHK)
 伊藤純 (NHKエンタープライズ)
 石崎宏哉 (東映)
 プロデューサー 川崎直子 (NHKエンタープライズ)
 演出 源孝志 (オットィモ)
 脚本 藤本有紀

ドラマ部門

ドラマ24

「バイプレイヤーズ」～もしも6人の名脇役がシェアハウスで暮らしたら～

ドリマックス・テレビジョン / テレビ東京

受賞コメント

企画書を見た人は皆「忙しい6人を揃えるなんて無理でしょう?」と言い、6人揃った時は「反則だ。つまらない訳がない」と言われ「ゲストで出たい」というキャストが後を絶たない...という奇跡のようなドラマでした。その原点は2002年の映画祭で6人が「いつか映画を作ろう」と話しあった事。その友情と生き様が様々な縁を生み、バイプレイヤーズを生み、この素晴らしい賞まで頂けた...まさしく奇跡だと思います。有難うございました!

プロデューサー 浅野敦也 (ドリマックス・テレビジョン)



©バイプレイヤーズ製作委員会

チーフプロデューサー 浅野太 (テレビ東京)
 プロデューサー (企画) 浅野敦也 (ドリマックス・テレビジョン)
 プロデューサー 濱谷晃一 (テレビ東京)
 田辺勇人 (テレビ東京)
 監督&脚本 松居大悟 (ゴーチブラザーズ)
 監督 横浜聡子 (フリー)
 竹村謙太郎 (ドリマックス・テレビジョン)
 脚本 守下敏行 (フリー)
 ふじきみつ彦
 宮本武史
 松居大悟

ドキュメンタリー部門

ブレイブ 勇敢なる者「えん罪弁護士」



受賞コメント

ドキュメンタリーはもっと自由に創意工夫に満ちた形式であるべきだと考え、始めたのが『ブレイブ』というシリーズです。「異色の…」と形容されがちな番組ですが、これからのTV界を担う同世代の作り手に刺激を与えたいと思って制作しました。2000年代以降の世界の潮流や技術・表現の進歩に追いつき、日本のTVドキュメンタリーが再びかつてのような存在感を示し、挑戦的な企画や演出が百花繚乱とすることを願っています。

ディレクター 佐々木健一 (NHKエデュケーショナル)

NHKエデュケーショナル / NHK 総合



制作統括 宮田興
(NHKエデュケーショナル)
稲毛重行 (NHK)
ディレクター 佐々木健一
(NHKエデュケーショナル)

ドキュメンタリー部門

世界はTokyo をめざす 「ひとりのアスリートとして泳ぎたい」～シリア難民 男子競泳～



受賞コメント

「自分は何を代表し、何のために泳ぐのか」
祖国シリアを離れ、「難民」として、東京五輪に挑戦するラムの心の軌跡を描きました。彼の葛藤に向き合う中で、異国で「難民」として生きる人々の様々な思い、そして私たちが彼らをいかに受け入れ 生きていくのか、深く考えさせられました。
取材に真正面から向き合ってくれたラム、そしてお互いの価値観をぶつけ合いながら一緒に番組作りをしてくれたスタッフに心から感謝いたします。

ディレクター 長谷川三郎 (ドキュメンタリージャパン)

ドキュメンタリージャパン / NHK BS1



制作統括 日置一太 (NHK)
川口潤
(NHKグローバルメディアサービス)
石川朋子
(ドキュメンタリージャパン)
ディレクター 長谷川三郎
(ドキュメンタリージャパン)

ドキュメンタリー部門

ノンフィクションW 「写真家レスリー・キーと1万人のカミング・アウト」



受賞コメント

「アートが社会を変える」。その可視化は難しいと思っていた。しかしレスリーの撮影を機にカミングアウトした人たちは地域や職場、子育ての現場で自分らしく生きることで、人々の先入観を変えつつある。一方、カミングアウトがきっかけの離婚など新たな困難に直面したり、カミングアウト出来ず抑圧の中で生きている人の方が多いのが現実だ。理想は「カミングアウトの必要がない社会」。この作品が少しでも役立てばと思っています。

ディレクター 中川あゆみ (テムジン)

テムジン / WOWOW



プロデューサー 古谷秀樹 (WOWOW)
平野まゆ (テムジン)
ディレクター 中川あゆみ (テムジン)

情報・バラエティ部門

「おかしな男」渥美清・寅さん夜明け前



受賞コメント

寅さんという巨大なシンボルの裏にある、渥美清の新鮮な人間像を手に入れるのが命題でした。撮影の山崎さん、脚本の青木さんはじめ鬼才たちが結集して、ボーダーの曖昧なドキュドラになりました。若き渥美と本人をしなやかに往復してくれた柄本佑さんと出会えたことが、本当に幸運でした。

思いもかけないご褒美をいただき、またみんなで渥美さんを偲び、祝えることが幸せです。どうもありがとうございました！

ディレクター 五十嵐久美子 (ドキュメンタリージャパン)

ドキュメンタリージャパン / NHK BSプレミアム



制作統括 橋本佳子
(ドキュメンタリージャパン)
牧野望 (NHK)
東野真
(NHKエンタープライズ)
演出 五十嵐久美子
(ドキュメンタリージャパン)

情報・バラエティ部門

「ロンブー淳の居座り。」京大編



受賞コメント

クリエイティブ・ジョーズ／毎日放送

この度はATP奨励賞を頂き、大変うれしく思っています。「居座り。」はいろんな所に居座って、LINEで繋がったいろんな人たちと交流する番組。つまりタブレットひとつあれば、どこでもロケができるので、可能性は無限大です。

また「〇〇編」で受賞できるよう続けていきたいと思っております。ありがとうございます。

演出 金津巧(クリエイティブ・ジョーズ)



© 毎日放送

チーフプロデューサー 長尾政彦(毎日放送)
プロデューサー 京原雄介(毎日放送)
中澤晋弥(吉本興業)
演出 金津巧(クリエイティブ・ジョーズ)

情報・バラエティ部門

超入門! 落語 THE MOVIE 「初天神」「饅頭怖い」



受賞コメント

NHKエンタープライズ、イースト・エンタテインメント／NHK 総合

落語を、囃家の音声を生かし、その上に俳優が口の動きをあわせて芝居する映像をかぶせて、作り上げる番組。落語好きの方々には「余計なお世話」と怒られるのでは、と恐れていました。幸い「入門編としては良い」、「映像をかぶせると、逆に囃家の妻みも伝わる」と、広い心で受け入れてくださった視聴者の皆様、そして「おもしろいじゃないですか」と、この企画に協力してくださった囃家の師匠たちに感謝しております。

エグゼクティブ・プロデューサー 大田純寛(NHKエンタープライズ)



制作統括 是洞茂樹(NHK)
大田純寛(NHKエンタープライズ)
瀬崎一世(イースト・エンタテインメント)
プロデューサー 斉藤嘉久(イースト・エンタテインメント)
演出 坂田政度(イースト・エンタテインメント)

ドラマ部門

ドラマW 「この街の命に」



受賞コメント

テレビ朝日映像／WOWOW

「行政獣医」という存在を知ったのがこの企画のきっかけでした。彼らは、獣医師でありながら、法の下に殺処分の職務を担っていると知りショックを受けました。調べてみると、そこには現状を変えようともかく人たちがいました。その最前線にあって、取材や撮影に協力していただいた方たちのお陰で、このような評価がいただけたと思います。そして、共に力を尽くしてくださった素晴らしいキャスト、スタッフに心から感謝いたします。

プロデューサー 藤田恵里香(テレビ朝日映像)



プロデューサー 徳田雄久(WOWOW)
藤田恵里香
(テレビ朝日映像)
監督 緒方明
脚本 青木研次

ドラマ部門

プレミアムよるドラマ 「嘘なんてひとつもないの」



受賞コメント

NHKエンタープライズ、ギークピクチャーズ／NHK BSプレミアム

メッセージはNHKらしく直球だけど、仕上がりはまるでNHKらしくない。—そんなドラマを目指して集まったのは、普段NHKとは縁のないCMクリエイター、サンダンス映画祭受賞監督&脚本家、そしてCMを数多く手がける制作プロダクションといった面々。でもその共同作業は意外にも、ドラマ作りの基本をあらためて見つめ直す機会ともなりました。新たな出会いと、ATP奨励賞という祝福に心から感謝です。

制作統括 陸田元一(NHKエンタープライズ)



制作統括 陸田元一
(NHKエンタープライズ)
篠原圭(NHK)
小澤祐治
(ギークピクチャーズ)
演出 萩原健太郎
(ザ・ディレクターズ・ギルド)
原案・脚本 篠原誠
脚本 藤本匡太

「ストリートワイズ・イン・ワンダーランド」 事件の方が放っておかない探偵



受賞コメント

共同テレビジョン／フジテレビジョン

親和性がなさそうな「ハードボイルド」と「群像コメディ」を掛け合わせたらどうなるか?という事を考え抜いて作りました。つまり「映像はカッコよく」、「内容はバカバカしく」という事です。

ドラマで「笑い」を追求する事は、まるで底なし沼にはまったように、もがけばもがくだけ抜け出せなくなるような感じで、ずっと抜け出せないんだろうなあと思っていたら賞がいただけました。ありがとうございます。

演出 吉村慶介(共同テレビジョン)



プロデューサー 勝田久美子(共同テレビジョン)
吉田和睦(ヨーロッパ企画)
演出 吉村慶介(共同テレビジョン)
企画 村上正成(フジテレビジョン)
野崎理(フジテレビジョン)
脚本 上田誠

第33回ATP賞 総評・部門別総評・作品別講評

総評

審査委員長 福浦与一

審査員のみなさんは各部門「その道のプロ」です。緻密な分析、鋭い評価によって選考が行われました。彼らをうならせる多くの作品がありました。人々に映像を届ける方法が急増する今、私たち製作会社が作るべきはどんな映像なのか。それは企画・構成・演出…真のプロが作り上げる上質な映像コンテンツだと思います。そこで「今求められるプロの力」を今回の選考ポイントにしました。結果、流行に左右されない本来の魅力が、今必要であることが浮き彫りになりました。ドキュメンタリー部門は丁寧な取材と練りに練った構成によって生まれる、強く心を揺さぶる作品。ドラマ部門は原作のないオリジナルドラマが高い評価を受けました。情報バラエティ部門は原点回帰＝家族みんなで視聴する番組が目玉されました。日本のコンテンツビジネスを支えている製作会社とスタッフが、この受賞式で広く世に知られることになれば、ATP賞の意義があると考えています。



ドキュメンタリー部門総評

千野克彦

今回は「よくぞこの題材を!」という素材への着眼が新鮮な作品は目立たなかったが、難民や外国が舞台の作品に秀作が見られた。一見遠く感じられる題材を心惹きつける作品に磨いた制作者の努力に脱帽する。目を引いたのはノンレーションが多かった事。海外展開を意識しての潮流だが、そのスタイルだけで満足していないだろうか?リアリティー追求の手法で、見せ切るには構成上の労力がある。受け手に何を伝えるのか…その本分を果たしているかを考える必要もあるのでは、と思う。一方でドキュメンタリーの弱点「撮れていないシーン」をどう表現するかの命題に様々な映像づくりで挑戦している作品も幾つか見られた。再現やドラマに頼らず、わかりやすい映像表現の工夫が凝らされ、見る者を楽しませるテレビならではの創意と情熱、作り手の個性が溢れ、思わず「参った」と唸ってしまった。

作品講評

BS1スペシャル「原爆救護」～被爆した兵士の歳月～……………ドキュメンタリー部門審査委員 千野克彦
原爆投下直後に救護に向かった少年特攻兵たち。戦後71年に彼らからヒロシマを描いた着眼がまず見事だ。当時10代の少年に刻まれた証言、記憶の断片を積み上げ、生き残った者の負い目、被曝者としての不安と差別、戦争に加担した葛藤も伝え、視野の広い秀作だ。戦後、語らなかつた彼らが証言したことは作り手への信頼に他ならない。オバマ訪問という節目の一方で元兵士の「戦争をしないことは大変だ」その言葉が心に突き刺さった。

NHK BS1スペシャル「チャイナ・ブルー」ある企業家の記録……………ドキュメンタリー部門審査委員 千野克彦
中国の引越し会社の社長を通じ今の中国が見えてくる。主人公の圧倒的な個性、「何も隠さない」という言葉の通り仕事の取引の裏舞台、私生活まで赤裸々に映し出す。妻と愛人を渡り歩き、愛人との激しい喧嘩もカメラの前で繰り広げられる。ノンレーションでどこに誘われるか不安になるが、他のノンナレ作品に比べ密着取材の素のやりとりで構成され、カメラの存在を感じさせないそのリアリティーはまさにドキュメンタリーだ。

ETV特集「武器ではなく命の水を」医師・中村哲とアフガニスタン……………ドキュメンタリー部門審査員 大久保徳宏
『100人の医師より1本の用水路を!』9・11テロの報復でアメリカから空爆されていたアフガニスタンは、当時歴史的な干ばつにあえいでいた。白衣を脱ぎ門外漢ながら用水路造りに乗り出した医師・中村哲。砂漠が沃野に変わる映像には鳥肌が立った。人を殺しに行く米軍ヘリが飛び交う下で、平和のために黙々と工事にいそしむ静なる反骨。こんなあっぱれな日本人の存在は、日本人の誇りでもある。プッシュやトランプには是非見せたい作品。

リアルサウンドが伝える世界「殺人者34万人の帰郷」ルワンダ虐殺22年目の“声”……………ドキュメンタリー部門審査委員 大久保徳宏
ルワンダ大虐殺の加害者は死刑にならず、強制労働キャンプに収容され、15～20年で釈放される。その一人の帰郷に密着。村に逃げてきた兄弟を撲殺した男は、その兄へ謝罪に向かう。ナレーション無しで、必要最小限の説明だけがスーパーで入る。殺人者たちの目のアップ、加害者と遺族の苦い沈黙。ナレーションが無い分、視覚や聴覚に訴えかけてくるものはずしりと重い。罪悪感なく人を殺す群集心理の恐ろしさが冷え冷えと心に刺さった。

ブレイブ 勇敢なる者「えん罪弁護士」……………ドキュメンタリー部門審査委員 稲垣綾子
カタイ話なのだろうと思っていたら、冒頭から気持ちよく裏切られる。法廷や取り調べ室でのやりとりの見せ方にも工夫がこらされている。法廷イメージや裁判資料、役者による再現などに安易に頼らず、独特なCGで表現。ゼロから創ってみせる!という気概を感じる。撮影や構成も含め「ドキュメンタリーだから…」という固定概念を感じさせない。テレビは面白くなくっちゃ!ということを改めて感じさせてくれる素晴らしい力作だ。

世界はTokyoをめざす「ひとりのアスリートとして泳ぎたい」～シリア難民 男子競泳～…ドキュメンタリー部門審査委員 大久保徳宏
リオ五輪で『難民選手団』というチームがあったことはあまり知られていない。この作品の主人公のシリア人青年は『シリア代表』でなく『難民選手』として競泳種目に出場した。次の東京では『難民』ではなくあくまで『アスリート』として出たいという切なる願い。そんな一青年の思いを通じて、シリア難民の悲哀を声高ではなく描いた。国は違えど同じ難民の青年たちに泳ぎを教えるシーンは、難民同士生きる力を与え合う姿が印象的だった。

ノンフィクションW「写真家レスリー・キーと1万人のカミング・アウト」……………ドキュメンタリー部門審査委員 稲垣綾子
1万人のLGBTを撮影し公表するプロジェクトを取材。妊娠中のレズビアンカップルや教師、性転換手術を考えるFTMなど、千人撮影達成までの様々なカムアウトを顔を隠さず描いている。この数の多さと顔が見えることに意味がある。番組中「私の周りにはいない」という発言が何度か出てくる。そんな時、千の写真が存在感を増してくる。「いない」のではない。「見えていない・言えない」という状況にすぎないのだ。メッセージ性ある意欲作。

情報・バラエティ部門総評

荻原伸之

“テレビはオワコン!”などと言われていますが、まだまだ多くの可能性と、プロの作り手の底深い手練手管がそこかしこに光る32作品を会おうことが出来ました。日頃、製作現場にいるとなかなか観ることが出来ない作品に、こうして触れる機会に恵まれたことに感謝します。しかしこれだけ優れた作品を評価するのは至難の業。当然、審査員の意見も分かれました。最終的には、最優秀賞、優秀賞はどれだけ幅広い世代の視聴者が楽しめるか、奨励賞は企画力、発想力の新しさ、独創性で選ばせてもらいました。残念ながら全ての作品の講評を述べる紙幅はありませんが、共通して言えることは取り上げた題材に真摯に向き合う製作者の姿勢に感動をしたことです。最後に、地上波に限って言えば8割近くが情報・バラエティ番組と言える状況の中、来年はもっと多くの作品にエントリーをお願いしたいと思います。

作品講評

「ザ・カラオケバトル」U-18 歌うま大甲子園 春の3時間SP……………情報・バラエティ部門審査委員 大野光浩
得点を競うだけでなく出場者のストーリーや大会にける情熱を丁寧に描く事で番組を見事に「歌の甲子園」に仕上げている。個々の歌唱力は素晴らしくブロック予選から100点満点を取る四天王など見せ場も多く息をつかせぬ構成。
家族みんなで楽しめるものこそテレビにしかできない役割であり、幅広い選曲のほか笑いと涙など様々な演出を駆使し王道のバラエティーに仕上げた番組。

「池上彰のニュース2016総決算!今そこにある7つの危機を考える!ニッポンが“危ない”」…情報・バラエティ部門審査委員 大野光浩
重大ニュースを日本の危機という視点で深く掘り下げ、衝撃映像や最先端映像を駆使し視覚的にも興味深く仕上げつつ、危機に対する対応策についても丁寧に紹介している
スタジオの質問で次々と視点を転がしながらさらに広く深く掘っていく構成で、要点がひと通りわかり、情報に満足感がある。1年を振り返って今後の日本を考えるという年末の整理を的確にとらえた番組である。

ザ・プレミアム「時空超越ドキュメンタリードラマ」江戸城無血開城……………情報・バラエティ部門審査委員 川端鉄也
完成度の高い重厚なドラマだけでも見応え十分なのに、主人公であるアーネスト・サトウがドラマから飛び出し、自ら解説を入れる。難解なテーマを視聴者を飽かさず、物語に引き込むには相当な演出が求められますが、随所に仕掛けられた“工夫”によって見事にそれを成し遂げています。史実をベースに膨らませたところこそがバラエティであり、この番組の面白さにつながったのだと思います。

「おかしな男」渥美清・寅さん夜明け前……………情報・バラエティ部門審査委員 川端鉄也
昭和最大のヒーロー渥美清とはどのような人間であったのか?ドキュメンタリーとドラマ、演出方法の異なる二つの世界を柄本佑さんを行き交わせることによって、視聴者を引き込むことに成功したと思います。“寅さん”をなんとなくしか知らない、昭和後期～平成世代でも楽しめる作品です。ラストシーンに「ここできたか!」と唸りました。

「ロンブー淳の居座り。」京大編……………情報・バラエティ部門審査委員 荻原伸之
タイトルが良い!“居座り”という古い言葉の新しさ、怖さ、そして作り手の何でも来いという潔さ。好奇心の塊・ロンブー敦がぐいぐいと取材対象に踏み込んでいく様に引き込まれて行く心地良さ。関西ならではの空気感が番組を後押ししているのではないだろうか。
今回は京大に居座っているが(この企画を受け入れた京大の懐の深さにも拍手)、是非他の居座りも観たくなる作品です。

超入門!落語 THE MOVIE「初天神」「饅頭怖い」……………情報・バラエティ部門審査委員 川端鉄也
斬新なアイデアで落語を「聴くもの」ではなく「観るもの」として映像化したことに衝撃を受けました。普段、落語はなかなか馴染みのない初心者でも話が映像化されることによって、鮮明に物語を理解できるようになります。伝統文化を新たな演出方法で、さらに面白いものに進化させる。演出・アイデアの新たな組み合わせで新しいコンテンツを生み出す素晴らしいお手本だと思います。

応募総数26作品。内訳は連続ドラマ11作品、スペシャル・単発ドラマ15作品、原作原案作品16、オリジナル10作品でした。原作ものが多い中で10作品ものオリジナル作品の応募がありました。また、連続ドラマは今の時代を反映した企画や新たな試みに挑戦した企画など個性豊かな作品が揃い審査委員の意見が分かれました。またスペシャル・単発ドラマも大型の意欲作や問題を提起する秀作が揃い審査が難航しました。そこで、個々の作品を企画・原作、脚本、演出・キャストの観点から評価し最終的に総合判断し最優秀賞、優秀賞、奨励賞の順番で決めました。今回の審査を通して、プロデューサーとして応募作品から多くのことを学びました。ありがとうございました。最後に選考に漏れた作品も入選した作品と紙一重の評価だったことを付け加えてドラマ部門の講評とさせていただきます。

作品講評

プレミアムドラマ「奇跡の人」……………ドラマ部門審査委員 沼田通嗣
 ヘレン・ケラーの「奇跡の人」はモチーフにこそなっているが、別次元の人間賛歌のドラマに仕上がっている。オリジナルドラマは企画者と脚本家の力量が問われますがこの作品は近年稀にみる出来となりました。人間は一人では不安だらけで儂くて弱いけれど、誰かのために生きることによって奇跡をも起こすことができる強い存在であることを時にユーモラスに時にシリアスに描かれている素敵な作品だと思いました。

プレミアムよるドラマ「プリンセスメゾン」……………ドラマ部門審査委員 高橋萬彦
 “家探しが自分探し”をテーマに、マンション購入を目指す女性のリアル体験ドラマ。ヒロインの不思議キャラによるシュールな作りに最初は戸惑ったが、回を追う毎にドラマの登場人物と同じくヒロインの魅力に惹かれた。特に毎回心情に合わせて歌を導入した演出は、新鮮であり才気煥発を感じる。都会の孤独を通奏低音にして優しさに満ちあふれた群像劇でもあり、今を生きる女性の後味の良い応援歌でもある。

NHK BSプレミアム スーパープレミアムドラマ「漱石閨々」夏目漱石最後の恋 京都祇園の二十九日間・ドラマ部門審査委員 高橋萬彦
 漱石の手紙を元に、漱石と祇園の女との恋模様を緊張感溢れる大人の幻想劇に仕立て上げたのは見事。文豪の妄想によって恋のもどかしさや儂さを軽妙に描きつつ、最後の手紙のやり取りに昇華させた。映像的にも京都の風情と和の佇まいを美しく切り取り、同時にそれを背景に映し出される宮沢りえの凄みのある美しさは特筆すべき。脚本と演出の力で五感に訴える、芳醇なラブストーリーに仕立て上げた逸品である。

ドラマ24「バイプレイヤーズ」～もしも6人の名脇役がシェアハウスで暮らしたら～……………ドラマ部門審査委員 高橋萬彦
 6人の名脇役たちが中国の動画サイトから大型ドラマのオファーを受けたことを契機に、共同生活を送る“おじさんのテラスハウス”。劇中に役者が本人役で登場し台詞もリアルで、虚実ないまぜのフェイクフィクションのコメディとして秀逸。ミステリータッチの展開も魅力的であり、素のトークコーナーもあるサービス精神溢れる作品。また深夜とは思えない豪華ゲストを成立させた制作陣の手腕と情熱に乾杯したい。

ドラマW「この街の命に」……………ドラマ部門審査委員 鈴木俊明
 目を背けてしまうテーマを緻密な取材、実際の施設をつかって丁寧に撮影していることがみてとれる。犬、猫の殺処分は命に対する扱われ方だけでなく、働いてる人たちの苦しみという点まで伝えてる。派手な演出もなく、あざとい展開もない。個々の役者がみんなすばらしく、何かを抱えてる。これが現実なんだ、といわんばかりの作品になっている。綺麗ごとでかたづけられないという主張は、心からこの問題を解決すべきという強い意志が感じられた。

プレミアムよるドラマ「嘘なんてひとつもないの」……………ドラマ部門審査委員 鈴木俊明
 嘘に傷ついた主人公が色んな人たちの愛で一歩ずつ前に進む。騙し騙されるが、すべて彼のための嘘だった。せまい部屋という設定で丹念に演出し臨場感をつくり、家を出てからは大胆な発想で一気に物事が転がっていく。既存のドラマではあり得ない発案・構成。半ば強引でやりっぱなし感さえあるが、そこがさらに不思議な心地よさをだしている。時系列がわかりづらい点も勢いで観れてしまう。まったく新しいドラマの形態だと思う。

「ストリートワイズ・イン・ワンダーランド」事件の方が放っておかない探偵……………ドラマ部門審査委員 鈴木俊明
 ヨーロッパ企画の発展した姿なのだろう。なにせちゃんと面白かった。ハードボイルドを馬鹿馬鹿しく描くことはあったが、ここまで大きな話に巻き込まれていくのはなかったのでは。構成が心地よく、単に思いつきを足していった笑いではなかった。一貫した同じ方向にみんながちゃんと向いていた気がする。もう少しわかりやすくてもよかったのかもしれないが、ハードボイルドの雰囲気損なう可能性があったのだろう。

特別賞 非放送系部門総評

2回目となった非放送系部門、候補作はどれも明らかな特徴があり、まったく違ったテイストを持つため選考は難航しました。特別賞非放送系部門は人気小説を映像化した「火花」です。全10回を初めにインターネットで配信し、出演者や演出は手間もお金もかけている。しかも全世界で見られるという前提で作られていました。映像制作の将来性について示唆に富むドラマでした。ほかにも、「野武士のグルメ」や「PRIME JAPAN 日本のこころに会う」も国境を越える作品ですが、内容は極めて日本的で世界の中での商品価値を考えさせるものでした。ほかにも、「NHKスペシャル～神の領域を走る～特設ページ」は地上波では不可能な360度映像をサイトに用意した意欲に、「指原莉乃&プラマヨの恋する男サイテー選手権」には現代のテレビの公共性では絶対にできないような“本能的な内容”を作る執念に、審査員一堂は感心させられました。新しいものが次々と生まれてくる予感と同時に、放送局との関係が変化していく状況を実感した審査でした。

【審査委員長】

福浦与一 (IVSテレビ制作)

【審査委員】

■ドキュメンタリー部門

稲垣綾子 (パオネットワーク)
 大久保徳宏 (東阪企画) 千野克彦 (フリー)

■情報・バラエティ部門

荻原伸之 (ジッピー・プロダクション)
 大野光浩 (えすと) 川端鉄也 (いまじん)

■ドラマ部門

鈴木俊明 (ホリプロ) 高橋萬彦 (共同テレビジョン)
 沼田通嗣 (テレパック)

■非放送系部門

品田英雄 (日経BP)
 林健嗣 (《a》)
 吉村文雄 (東映)

五十音順、敬称略

最優秀新人賞



北川俊樹

大映テレビ

土曜ドラマ24 「銀と金」

受賞コメント

この度は大変栄誉な賞をいただき、ありがとうございます。
『銀と金』が企画として走り出したのは、ちょうど1年ほど前でした。私はもちろん、テレビ東京の担当プロデューサー・松本氏も若手で、せっかくなら思い切ったものにしよう話し合ったことを覚えています。その想いに最初に乗ってくださったのが、原作者の福本先生でした。

原作漫画からの設定や内容の変更に関して、我々制作陣の提案に常に前向きにご対応いただいたのです。決して実績があるわけではない我々に、しっかりと向き合ってくださいました。それは監督をはじめ、ベテランのスタッフ、そして池松壮亮さんやリリー・フランキーさんたちキャストの皆さんも同様です。

昨今のテレビ制作現場のご多分に漏れず、非常にタイトな現場にあって、「面白いドラマにしたい。面白いドラマになる。」という我々の青臭い想いを皆さんが真摯に受け止めて、形にしてくださいました。とてもありがたく、良い経験をさせていただきました。

若者のテレビ離れ、ドラマ離れが進んでいると言われる中で、彼らをターゲットとした同ドラマで評価をいただいたということ。この事を諸先輩方の叱咤激励だと受け止め、慢心することなく、今後もより面白いドラマを作りたいと思います。



優秀新人賞



篠原利恵

テレビマンユニオン

ドキュメンタリー WAVE「子どもたちの”リアル”を取り戻せ」 韓国ネット依存治療最前線

受賞コメント

自分のなかに芽生えた不思議が、企画になって、現場があって、番組になって、世の中に出て行くことを初めて経験しました。まるで中学生の母みたいに、産みたいの!という気持ちだけで、私は他に何も持っていませんでしたが、さまざまな人が一緒になって番組を育ててくれたことが嬉しいです。





赤坂恵美子

東北新社

認知症：ともに新しい時代へ「ドキュメンタリードラマ『母、立ちあがる』」

受賞コメント

“認知症”の本人と初めてお会いする時、正直、とても身構えました。でも、藤田さんとの対話を重ねていく中で、認知症の“リアル”を伝えなければと、切に思った。いい意味で使命感に駆られながら、寄り添っていた気がします。取材中、彼女の言葉や姿に、目頭が熱くなる場面がいくつもありました。認知症に対する“偏見”をなくすため、彼女は今日も闘っています。この番組が、そんな現実を知るきっかけになればとても光栄です。



藤原桃子

NHKエデュケーショナル

「オトナの一休さん」第一則 クソとお経

受賞コメント

禅の世界に「無繩自縛（^{むじょうじばく}無い縄で自分を縛る）」という言葉があります。体裁、コンプレックス、過去の成功や失敗体験…。そんな現代人の「無い縄」をハリと断ち切るトリックスターとして一休さんを甦らせたいと思いました。ただど一休さんに一番救われたのは、元来小心者でパキパキの無繩自縛ディレクター、だった私自身かもしれません。今回の賞、一休さんからの「ごほうび唱」だと受け止め、これからも精進したいと思います。



嶋寄太郎

日テレ アックスオン

「イチバン乗り見〜つけた!」

受賞コメント

この度は、このような大変名誉ある賞を頂いて本当に光栄です。今まで「支えてくれた全ての人に感謝。」といったコメントを空空しく思う人生を送ってきましたが、イチバン乗りする「人」のキャラクターに全面的に助けられたこの番組を経験し、心から関係各所の皆さまに感謝の念を伝えたいと思うようになりました。ありがとうございました。



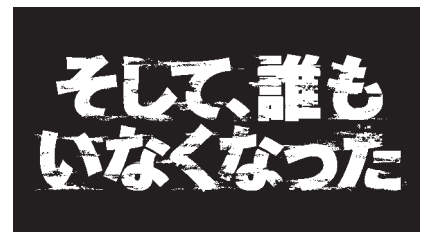
鈴木亜希乃

日テレ アックスオン

日曜ドラマ「そして、誰もいなくなった」

受賞コメント

この世界に入った時に、“オリジナル”で連続ドラマを作るのが夢でした。あの時漠然と思っていたことが、まさか実現し、さらにこのような有難い賞をいただけるとは…。自分が唯一誰かに誇れることは“負”のエネルギーでした。嫉妬や悔しさ、人間として醜い感情ばかりを持った私ですが、そんな人間でも認めてくれる人がいて、受け入れてくれるドラマという世界に、ただただ感謝するばかりです。ありがとうございます。





福山 穰

NHKエデュケーショナル

BS1スペシャル「激戦!おもてなしのアスリート〜世界ソムリエコンクール〜」

受賞コメント

この特集企画は3年越しの悲願でした。このような名誉ある賞を受賞することができて本当に光栄に思います。「おもてなし」という言葉はもはや時代後れでは、という思いもありましたが、取材中出会ったトップソムリエたちは「おもてなし」の道を追求するアスリートそのものでした。取材に協力いただいた選手やご家族、審査員、ワイン生産者の方々、そして制作に携わった全てのメンバーへ、感謝とお祝いの気持ちを込めて。乾杯!



佐藤 創我

グループ現代

BS1スペシャル「月へ、夢を」人類初の月面探査レースに挑む

受賞コメント

「人類の歴史が目の前で変わろうとしている!?!」そんな気持ちで2年半カメラを回し続けました。“民間チームで月を探査する”という前代未聞のプロジェクトに挑戦するHAKUTO (ハクト)。壁にぶち当たりまくるその挑戦自体もさることながら、メンバーそれぞれの個性も強烈に面白い。彼らの挑戦の凄さが少しでも伝わればと思い番組を制作しました。サポート頂いた皆様に感謝致します。



中村 拓馬

エー・ピー・シーリブラ

ナイトinナイト 水曜日「今ちゃんの『実は…』」 彼女が彼氏になかなか聞けない 給料を聞いたら実は…

受賞コメント

「世の女性が知りたいと思うモノはなんだろう?」という所から企画がスタートし、最終的に「彼氏の給料」に行き着きました。

この賞を頂けたのは、ほかでもない企画の立役者である千鳥さん、番組スタッフの皆様、取材に応じてくれた彼女、そして何よりもテレビで給料を言ってくれた男気あふれる素敵な彼氏のおかげです。「僕が彼氏の立場だったら…」と思うとゾッとします。

この企画を支えてくれた皆さまに心から感謝します。



中谷 陽介

いまじん

「ザ!世界仰天ニュース」なんでこんなになった?世界大注目の少年

受賞コメント

取材前、肥満に深刻に悩む少年を想定していましたが、実際会うとその逆で、超バラエティ向きのキャラ。いい意味での想定外。ありのままの彼を出すことにしました。しかし、その巨体と、10歳の自由過ぎる性格。日本に連れてくるだけでも、四苦八苦。コーディネーター、航空会社、ホテル、車両、病院など…全ての方にとって規格外の初体験の中、皆様にご多大なご協力頂き、無事OAできました。皆様、改めてありがとうございました。





岩崎マリエ

日テレ アックスオン

日テレ×WOWOW×Hulu共同製作ドラマ「銭形警部」
「銭形警部 深紅の捜査ファイル」 銭形の愛した女

受賞コメント

シリーズ唯一の恋愛物を監督することに当初はプレッシャーを感じていましたが、この作品を通して、監督とは自分の力でどうこうするものではなく、周りの方々の才能によって自分が思い描いていた以上の物を作り上げてもらう仕事なんだと学びました。より良い作品に仕上げるため一緒に奮闘して下さった先輩キャスト・スタッフの皆様心から感謝するとともに、思い出深いこの作品で荣誉ある賞を頂けて本当に嬉しく思います。



第33回ATP賞 新人賞総評

新人賞総評

審査委員長 沼田通嗣

応募総数はドキュメンタリー部門11作品、情報・バラエティー部門10作品、ドラマ部門6作品の計27作品でした。どのジャンルにも新人とは思えない出来の作品が揃いました。選考はドキュメンタリー、情報・バラエティーそしてドラマの先輩制作者の方々が「こういう後輩たちに将来テレビ業界を引っ張って欲しい」という観点から行い、作品の出来と同時により人物重視で行いました。企画力・演出力が優れている人はもちろん各方面からの期待度などの評判も加味して優秀賞・奨励賞を選びました。



個別審査講評

最優秀新人賞 北川俊樹..... 新人賞審査委員 佐野奈緒子

映像化の許可取得が難しい原作に長期にわたり粘り強く交渉し、作品化に漕ぎ着けた点が評価された。予算的にも限られた条件の中で、映像のクオリティの追及やキャストिंगについてもよく考えられている。作品全体としては粗削りではあるが、将来に期待したい。

優秀新人賞 篠原利恵..... 新人賞審査委員 井上啓子

「子ども達が変化していく瞬間」を撮影できていることが一番素晴らしいと思います。その瞬間を撮影できたのは、病んでいる子ども達という難しい取材対象と向き合った真摯な姿勢の賜物なのだと思います。またシーンのひとつひとつに、ディレクターの「強い意志」と「明確な目線」を感じました。ドキュメンタリーの枠が減り制作のチャンスも少なくなっていく中、まだまだドキュメンタリーの未来は明るく思わせてくれる作品でした。

優秀新人賞 赤坂恵美子..... 新人賞審査委員 井上啓子

認知症患者ご本人を取材することになった時、ディレクターは何を考えるだろうか。ご本人はどの程度取材による影響を理解しているか。取材を受けるとい意志は、どこまでゆるぎないものなのか・・・ディレクターの頭には様々な思いがめぐり、時に葛藤がおこったに違いない。それでも取材相手との関係性を構築し、放送するに至ったということの評価したいと思います。次はどんな題材を選び、どんな作品をみせてくれるのか、楽しみです。

優秀新人賞 藤原桃子..... 新人賞審査委員 佐々木英敏

アニメやドラマの影響から一休さんは子どものイメージがついているが、この作品は大人になったリアルな一休さんをアニメで表現している。第1則の「クソとお経」では、お経を書いた紙の上に自分のクソを乗せて登場するなど、モザイクが入っていたが、ギリギリな所を攻めており何にも縛られていない型破りな作品だと唸った。たった5分間の番組ではあるが、新しい物を作り出すという攻めの姿勢とセンスが素晴らしい。

優秀新人賞 嶋寄太郎……………新人賞審査委員 佐々木英敏
タレントの力に頼らず、ひたすら一番乗りさんの素人を取材し構成するというシンプルな番組。いかに面白い素人に出会えるかがポイントになるわけだが、ミラクルが起きる強運もあり魅力的な素人さんが多数出演する面白い番組に仕上がっていた。これはスタッフの粘り勝ちが生んだ作品であろう。取材力の高さで得た、気になる面白情報を編集で見せる技も光っていた。これがディレクターとして、1作目だとは思えない作品だった。

優秀新人賞 鈴木亜希乃……………新人賞審査委員 佐野奈緒子
新人賞ではあるがさすが5作目。他とレベルが違う企画力の秀逸さが光る。現代版ホラーとしてよく出来ている。国策のマイナンバーのタイミングと合わせた、時代を見据えた企画で、それを番組として成立させたプロデュース力が◎。ナンバリングに潜む恐ろしさや、法制度が全く追いついていないのに、マイナンバー制度に踏み出す世の中への警鐘ともとれる。エンターテインメントとしてもよく出来ている。

奨励新人賞 福山穰……………新人賞審査委員 井上啓子
正味99分という長丁場をあきることなく一気に見せていただきました。やりたいことを「エンターテインメント」としてどう見せれば視聴者を惹きつけられるか、ということに挑んでいる姿勢を高く評価したいと思います。テレビ離れがすすむ中、「見たいドキュメンタリー」をどう追求していくかは、大きなテーマだと思います。時代をしなやかにとらえ、明確な「目線」をもってみるその姿勢をいつまでも大切にしていただければと思います。

奨励新人賞 佐藤創我……………新人賞審査委員 井上啓子
企画が通る前から、ディレクターが一人でカメラをもって取材にでていた、という熱意が感じられる番組でした。新人時代、自分でカメラを持ち一年をかけて取材をしていた是枝監督のことを思い出しました。低予算化、人材不足など厳しい状況が続くテレビ業界ですが、佐藤ディレクターのように、熱い想いを持った人材がまだまだいて、それをバックアップしている会社があるということに救われる思いがします。次作を楽しみにしています。

奨励新人賞 中村拓馬……………新人賞審査委員 佐々木英敏
「結婚を考えている彼女が彼氏の給料を聞く」のを千鳥がお手伝いするといった内容のVTR。取材対象者を事前に仕込むのではなく、街頭インタビューで捕まえて密着するといった撮れ高がかなり心配なタレントロケにチャレンジ。今回彼氏がガチで怒るといったハプニングにも動じず、その場で問題を解決した現場での判断力も素晴らしい。お蔵入りする可能性もある中、取材対象者を嫌な人間に見せない編集テクニックにも感心。

奨励新人賞 中谷陽介……………新人賞審査委員 佐々木英敏
ディレクター歴2年で体重186キロ・10歳の少年を取材にインドネシアへ単身で行き、撮影・取材交渉・演出をすべて行ったというのだから立派である。ベテランDでも一筋縄ではいかない海外ロケ。気難しい少年を相手に信頼関係をしっかり築いて撮影、笑いの要素も入れた飽きない編集で新人らしからぬ作品に仕上げている。失敗したら取り返しのつかない海外ロケを、思いきって若手をチャレンジさせる番組の環境も素晴らしい。

奨励新人賞 岩崎マリエ……………新人賞審査委員 佐野奈緒子
ディレクターとしての技術力が高く評価された。新人ながら任されていたタイトルバックもセンスよく出来ている。将来ますますの活躍を期待する。テレビ業界の将来の財産だと思う。今後の作品を見続けたい。

【新人賞審査委員】	
審査委員長	審査委員
沼田通嗣(テレパック)	井上啓子(クリエイティブネクサス) 佐々木英敏(シオン) 佐野奈緒子(大映テレビ)
	五十音順、敬称略

「東京女子図鑑」

ワタナベエンターテインメント / Amazonプライム・ビデオ



受賞コメント

この作品が完成して、監督が一言。「暴力や殺人の描写は一切ないのに、ある意味女性を恐怖に陥れるホラー作品が出来ました。笑」その後、SNS等で評価を頂き、お陰様で多くの人に視聴される作品となりました。お隣の中国でも話題になり、リメイク化の間合せも数多く頂いております。新しいプラットフォームで果敢に挑戦してくれた監督と脚本家、主演の水川さん。そして素晴らしいオールスタッフ&キャストに感謝しております。

プロデューサー 中間恒 (ワタナベエンターテインメント)



©ワタナベエンターテインメント

「テレビマンユニオンチャンネル」

テレビマンユニオン



受賞コメント

プロダクションが自らメディアをもつという試みを評価いただき、心より感謝いたします。小さくて無謀な試みではありますが、私たちのこのチャレンジが、プロダクションの新しい形を示すことになれば幸いです。

プロデューサー 中村哲夫 (テレビマンユニオン)



「孤独のグルメ」制作チーム

共同テレビジョン / テレビ東京



受賞コメント

一人飯の美学。ドキュメンタリードラマと銘打ってるだけに、実在するお店が舞台のこの番組。Season6を終えて、レギュラーだけで72食を完食。主演の松重豊さんも、まさに食べるに食べたり。お店探しが生命線。スタッフ、作家と手分けして1日10軒、1seasonで計200軒以上は回ってます。撮影を快く受けて頂いたお店に感謝。そして、食べるシーンでNGを出さない松重豊さんに感謝。美味しいシズル感を引き出してくれる技術スタッフにも感謝。

プロデューサー 吉見健士 (共同テレビジョン)



©テレビ東京

非放送系

「Netflixオリジナルドラマ『火花』」

YDクリエイション / Netflix



受賞コメント

又吉直樹の小説が、Netflixとのタグにより映像化され、全世界へと羽ばたきました。お笑いの世界を描いた文学的青春劇は映像化に向いていないとも思われていましたが、自由な映像表現ができる環境を得て、全10話を通して一つの長編映画のような、ぜいたくな作品になりました。それが評価され、このような賞をいただいたことは本当に嬉しく思います。全てのスタッフ、キャストの皆さまに感謝いたします。

プロデューサー 山地克明 (YDクリエイション)



大河ファンタジー 「精霊の守り人」

NHKエンタープライズ / NHK 総合



受賞コメント

栄えある賞をありがとうございます。「精霊の守り人」は架空の世界を舞台にしたハイファンタジーで、衣装はもちろん所作や料理なども一線のクリエイターと共にゼロから作り上げました。そんな5センチ浮いた設定を普遍に落としこめたなら、それは綾瀬はるかさんたち出演者の体力と胆力の賜物です。新しい分野に挑んだキャスト・スタッフに感謝するとともに、日本のテレビにファンタジーが定着することを願ってやみません。

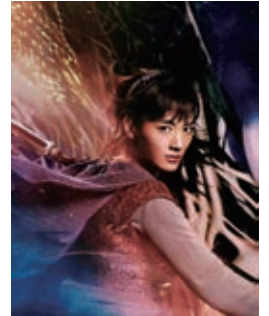
制作統括 海辺潔 (NHKエンタープライズ)

制作統括

海辺潔 (NHKエンタープライズ)
越智篤志 (NHK)
演出
片岡敬司 (NHKエンタープライズ)

原作

上橋菜穂子
脚本
大森寿美男



©NHK

第33回ATP賞 総務大臣賞総評

審査委員長 林健嗣

総務大臣賞候補作品は、海外展開を企画段階から意図して製作された「格闘ゲームに生きる」「精霊の守り人」「すし Sushi」の3番組と、日本の文化やテレビフォーマットを海外展開する可能性を問う「女ひとり 70歳の茶事行脚」「『初天神』『餓頭怖い』『世界まるなげカメラ』の3番組でした。海外展開の可能性を問う3番組は、映像の美しさや斬新な演出を高く評価する一方、“茶事”“落語の映像化”“日本の演出手法”を海外へ向けローカライズする際の障壁に難点があり、海外展開には、課題があるとの指摘から、選考からまれる結果でした。しかし、審査員の中には、最終選考に残ったものより、高い評価をする方がいました。

一方、Tokyo Docs 2014にて、優秀賞や開発資金等3賞を受賞し、国際共同製作企画として台湾と共同制作され、英国の配信会社により、世界配信されている「格闘ゲーム」に代表される海外展開に実績を残す3番組の中で、最終的に、4K映像の美しさと国内の視聴者にとり充分見応えがあったと全審査員が評価した、ドラマ部門の「精霊の守り人」と非放送系部門「すし Sushi」の2番組が競う事になりました。「すし Sushi」は、日本の文化を4Kならではの映像美とジョナサン・シアーを起用した番組の完成度も高く、世界配信に挑んだ制作会社の意欲的な姿勢に評価が集まりました。一方、圧倒的な制作体制で、上橋菜穂子のファンタジーを、セット美術、衣装は勿論、最先端のVFXを駆使した映像で、原作の壮大なスケールを再現して、昨年のフランスMIPでは、アジア初となるプレミア上映作品に選ばれ、海外からオファーが続いている「精霊の守り人」は、日本を代表する世界配信ドラマ番組となるよう、今後のシリーズへの期待を込めた評価が示されました。議論の結果、制作・演出人が更なる高みを目指してほしいという期待を込め「精霊の守り人」に決まりました。



総務大臣賞審査委員

審査委員長 林健嗣 (《a》)

審査委員 内山隆 (青山学院大学) 木下勢治 (アマゾンラテルナ) 佐藤幹夫 (NHKエンタープライズ) 長谷川朋子 (放送ジャーナル社)

五十音順、敬称略